

会 議 録

| | | | |
|------------|---|----------------|--------------------|
| 会議の名称 | 令和元年度第2回本庄市総合教育会議 | | |
| 開催日時 | 令和元年10月31日(木) | 午前・午後 午前・午後 | 1時30分から 3時15分まで |
| 開催場所 | 職員厚生室(本庄市役所2階) | | |
| 出席者 | <p>構成員：吉田市長、勝山教育長、富沢教育長職務代理者、落合委員(途中出席)、岡崎委員、今井委員</p> <p>教育委員会事務局：高橋教育委員会事務局長、笠原教育総務課長、黒崎学校教育課長、学校教育課武藤指導主事</p> <p>事務局：山下部企画財政部長、原福祉部長、前川企画課長、清水秘書課長、山田生活自立支援課長、企画課新井課長補佐、秘書課神岡課長補佐、生活自立支援課茂木課長補佐、企画課石橋主事</p> | | |
| 議題 (次第) | <ol style="list-style-type: none"> 1 開 会 2 市長挨拶 3 教育長挨拶 4 議 題 貧困家庭・外国人に対する教育サポートについて(意見交換) 5 その他 6 閉 会 | | |
| 配付資料 | <ul style="list-style-type: none"> ・次第 ・資料1：貧困家庭等に属する子どもの支援について ・資料2：外国人児童生徒に関する取組等について ・参考資料1：本庄市総合教育会議運営要綱 | | |
| その他特記事項 | なし | | |
| 主管課 | 企画課 | | |

| 会 議 の 経 過 | |
|---------------|---|
| 発 言 者 | 発言内容・決定事項等 |
| 事務局 (企画課長) | <p>皆さんこんにちは。本日はお忙しいところ、令和元年度第2回本庄市総合教育会議にご出席を賜りまして、誠にありがとうございます。本日、進行を務めさせていただきます、企画財政部企画課長の前川と申します。どうぞよろしくお願いいたします。</p> <p>なお、落合委員につきましては、本日欠席の連絡をいただいております。</p> <p>それでは、これより会議を始めさせていただきます。</p> <p>なお、本日は傍聴の希望者はありません。</p> <p>それでは、次第に沿って会議を進めさせていただきます。</p> <p>開会にあたりまして、吉田市長よりご挨拶をお願いします。</p> |
| 市長 | <p>本日は、本年度第2回総合教育会議ということで、ご参集いただき誠にありがとうございます。</p> <p>過日、文部科学省において、政令指定都市及び都道府県の教育委員の研修というものがございました。その研修の一環として、教育委員の方々にパネルディスカッションを見ていただく企画があり、そのパネリストの1人として、参加させていただきました。私と、東京都の職務代理者の先生、札幌市の教育委員の方の3人がパネリストとして依頼されました。</p> <p>当初、私は政令指定都市や都道府県とは違う、基礎自治体の首長であったため戸惑いがありました。しかし、文部科学省の担当の方から、基礎自治体の総合教育会議ではどのようなことを行っているのか、ありのままを話してほしいとのことでした。基礎自治体の調査を行ったところ、本庄市は総合教育会議を年3回開催しており、他の自治体に比べ開催数が多く、市長部局と教育委員会部局で連携を図っているため、注目に値するとお褒めの言葉をいただきました。</p> <p>私自身、教育委員の方々の生の声、例えばある政令指定都市の教育委員の方が『市の教育行政に、どこまで自分達関わっているのか、教育委員として非常にもどかしい思いをしている』と発言をし、それに対し、東京都の職務代理者の先生が『気持ちは分かりますが、そもそも教育委員に求められているのは大局的な見地に立ち、自分自身の専門性などを発揮すること』と仰っており非常に印象深かったです。</p> <p>今後とも、市長部局と教育委員会部局で連携を図りながら、政策を進めていければよいと思っております。また、本日は今井委員からご提案いただいた「貧困家庭・外国人に対する教育サポートについて」意見交換をさせていただきます。総合教育会議は、市長部局と教育委員会部局が会議を開くことを法的に担保されている場であると私は考えています。ぜひ忌憚の無い意見を頂戴し、今後の市行政・市教育行政に活かしていきたいと考えております。本日はどうぞよろしくお願いいたします。</p> |

| | |
|---------------|---|
| 事務局 (企画課長) | ありがとうございました。続きまして勝山教育長よりご挨拶をお願いします。 |
| 勝山教育長 | <p>雨が多かった10月でしたが、本日は非常によい天気となりました。実りの秋を迎え、現在各学校では教育週間となっています。学校公開や合唱コンクールなどの行事を通し、地域の方や保護者の方にご来校いただき、子どもたちの活動や様子を見ていただく週間です。</p> <p>また、各公民館においても、クラブ活動の発表会があちこちで行われている時期です。</p> <p>本日の総合教育会議では、「貧困家庭・外国人に対する教育サポートについて」という議題でご意見等の交換をさせていただきます。現在、誰も取り残さないSDGsという考え方が広く浸透しています。まさに、時期を得た議題であると私自身感じているところです。どうぞ忌憚の無いご意見等を賜りまして、今後の教育行政に活かしていきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。</p> |
| 事務局 (企画課長) | <p>ありがとうございました。それではここで、配布資料の確認をさせていただきます。本日の資料といたしまして</p> <p>① 本日の次第 ② 資料1：貧困家庭等に属する子どもの支援について ③ 資料2：外国人児童生徒に関する取組等について ④ 参考資料1：本庄市総合教育会議運営要綱</p> <p>以上4点でございます。不足等はございませんでしょうか。 それでは、早速議題に入らせていただきます。「本庄市総合教育会議運営要綱」第4条第1項の規定により、市長が本会議の議長となることとされております。これからの議事の進行につきましては、吉田市長にお願いしたいと思います。よろしくお願いたします。</p> |
| 市長 | <p>要綱に基づき、議事の進行をさせていただきます。会議のスムーズな運営にご協力をよろしくお願いいたします。</p> <p>本日の会議録でございますが、本庄市総合教育会議運営要綱第7条第2項の規定により、「会議録には、市長及び市長が指名する1人の構成員が署名するものとする」とあります。本日の会議録につきましては、私と勝山教育長が署名するというところでよろしいでしょうか。</p> <p style="text-align: center;">(異議なし)</p> <p>それでは、事務局にて作成された会議録につきましては、本日出席の皆さまの確認の後に、署名を行うこととします。</p> <p>早速、議事に入らせていただきます。今回の議題は「貧困家庭・外国人に対する教育サポートについて」となりますが、まず貧困家庭に対する教育サポートについて、事務局より説明をお願いします。</p> |

| 【議題】 貧困家庭・外国人に対する教育サポートについて | |
|-----------------------------|---|
| 事務局 (生活自立支援課長) | (資料1に基づき説明) |
| 市長 | ありがとうございました。 引き続き、外国人に対する教育サポートについて、事務局より説明をお願いします。 |
| 事務局 (学校教育課長) | (資料2に基づき説明) |
| 市長 | ありがとうございました。ただいま、事務局より「貧困家庭・外国人に対する教育サポートについて」説明をいただきました。 それでは、皆さんからのご意見・ご質問等をお願いしたいと思います。どの話題に関してでも構いません。 |
| 今井委員 | 資料2について質問ですが、外国人児童・生徒の状況が出ていますが、貧困状況は把握されているのでしょうか。 |
| 学校教育課長 | 貧困の状況まで把握が出来ていないのが現状です。 |
| 今井委員 | では、外国人であり貧困家庭でもあるという状況も有り得ますか。 |
| 市長 | では、これについては生活自立支援課長からお願いします。 |
| 生活自立支援課長 | はい。現在、生活自立支援課で行っているアスポート事業の中に、外国籍の方が2人程参加しています。 |
| 市長 | 生活自立支援課において、所得等の状況を確認し、困窮世帯かどうかを把握するため、生活自立支援課の所管となりますね。確実に人数の把握ができます。 今井委員、いかがでしょうか。 |
| 今井委員 | 今後は、生活自立支援課と学校教育課が連携していくことが一番良いと思います。太田市や大泉町、沖縄県でも、教育委員会と行政と一緒に子どもをサポートしていく体制が取られています。 生活が大変な家庭の子どもを発見しやすいのは学校です。課が連携して、支援をしていく流れができれば良いと思います。 |
| 市長 | 学校からの報告で調査を行った結果、家庭の問題が見つかることもあります。貧困もそういった形で発見されることは多いのでしょうか。 |
| 生活自立支援課 茂木課長補佐 | 学校ごとになりますが、アスポートと学校で連携を取り始めています。 最近では学校の先生からアスポート担当者に相談を頂いたり、また、先生が保護者に市役所の相談窓口を案内し、保護者が市役所に来るケースもあります。 |
| 市長 | 他にいかがでしょうか。 では私からアスポート事業について質問ですが、学校の支援員等が家庭訪問をしているということですが、これはアスポート教室に来ていない子どもを含めた、学習支援対象者全員に対して行 |

| | |
|-------------------|--|
| | <p>っているのですか。家庭訪問をして、アスポート教室への勧誘を行っているのでしょうか。</p> <p>また、延べ回数は出ていますが、1軒に対するアプローチの頻度はどれくらいでしょうか。</p> |
| 生活自立支援課 茂木課長補佐 | <p>現在、教室未参加も含めた支援対象26世帯に繰り返し家庭訪問を行っています。教室参加は保護者の同意が必要ですので、まずはその同意を頂くために訪問し、同時に生活状況を把握します。しかし、周囲は心配していても保護者は心配していない場合があります。数回の訪問では同意に至らないことがあります。そこを一步踏み込み、保護者に就学の大切さをアプローチして教室参加の同意を頂くため、繰り返し訪問しています。</p> |
| 市長 | <p>なるほど。アスポートでは個別指導を行うことになりましたが、先生方はどのような方がいらっしゃるのでしょうか。</p> |
| 生活自立支援課 茂木課長補佐 | <p>基本的にはアスポートの正規職員です。職員は元教員が多く、本庄の場合、常時4人ほど来て頂いています。このほか、ボランティアで教員退職者や大学生に来て頂いています。</p> <p>何が分からないのかが分からない状況の子どももいますので、マンツーマン体制となります。そのため、子ども10～12人の参加に対し、大人も10～12人いるような現状です。</p> |
| 市長 | <p>そういった教室へ参加している子どもについて、学校では特に把握はしていないのでしょうか。</p> |
| 学校教育課長 | <p>現状把握はしていません。</p> |
| 富沢教育長 職務代理者 | <p>家庭訪問に最初に行くのは、アスポート事業者ですか。</p> |
| 生活自立支援 課長 | <p>はい。そのとおりです。</p> |
| 富沢教育長 職務代理者 | <p>家庭訪問を行っている家庭の中には、学校の先生も独自に訪問している家もあると思います。先ほども出ましたが、学校との連動がまだまだ希薄だと感じます。実際に、教室で勉強を始めたことを、学校にも把握してもらうことも必要です。</p> <p>学校教育課長に質問ですが、中学校において、塾に通っている子どもの数を把握しているのでしょうか。</p> |
| 学校教育課長 | <p>そういった調査をかけることもあります。細かい部分まで把握はできていません。</p> |
| 富沢教育長 職務代理者 | <p>人数が多いので大変なのはわかりますが、学校が行っている教育の他に、その子どもにどんな教育が行われているかという把握は、絶対にしておくべきです。学校とアスポートとの連携がもう少し図られればと思います。</p> |
| 市長 | <p>どこまで連動するのが一番良いのでしょうか。連動しなくて良い部分もあると思います。例えば、家庭の問題については連動が必要だと思いますが、学力についてはどこまで連動する必要があるのかと感じます。生徒一人ひとりの、学習環境が向上していく</p> |

| | |
|-------------------|---|
| | <p>ことは良いことだと思います。 他に何かありますか。</p> |
| 今井委員 | <p>確かにどこまで連動するかは、難しい部分だと思います。しかし、貧困家庭の子どもへの対応と同じように、外国人の子どもの対応についても情報共有を行い、個別対応可能な場所に任せられれば、学校の先生の負担も減ると思います。</p> <p>また、子どもは、認められたり褒められたりすると喜びます。学校以外の場所で勉強していることを、先生が把握していれば、声かけができるので、子どもの更なるやる気にも繋がっていきます。</p> |
| 市長 | <p>担任の先生が、子どもの置かれている状況を把握しておくことが大切ということですね。富沢先生が先ほど仰っていたことも、そういうことですね。子どもも、アスポートへ行くことで成績が上がれば、先生に褒められますし意欲も上がりますね。</p> |
| 今井委員 | <p>毎日同じ服を着ていたり、お風呂に入れていない様子が見て取れた場合等に、学校の先生がどこに連絡をするべきか分かる体制があれば良いと思います。スクールソーシャルワーカー等が機能し、情報収集を行い、学校と行政を繋いでいく流れがあれば良いと感じます。</p> |
| 市長 | <p>アスポートだけでなく、学校の先生が異変を感じた時、どこに相談すべきか把握しているのでしょうか。それとも、学校の先生が誰かに相談し、そこから連絡が繋がれるような形なのでしょう。</p> |
| 学校教育課長 | <p>虐待等については、子育て支援課や専門機関に相談するという事は把握しています。しかし、それ以外の場合においては、どの機関に頼るとサポートしてもらえるのかが、把握しきれていない部分があると感じました。</p> |
| 市長 | <p>お互い存在を知らなかった、ということが結構あるようですね。情報共有の意味では、総合教育会議は大事だと感じます。</p> <p>岡崎委員から何かございますか。</p> |
| 岡崎委員 | <p>現在、情報の共有がしやすい時代となっていますが、積極的に道筋を作っていないと感じます。実は私も、アスポート事業については最近知りました。</p> <p>資料1では、中学生と高校生について記載してありますが、小学生やそれ以下の子どもの対象者数についても把握されているのでしょうか。</p> |
| 生活自立支援課 茂木課長補佐 | <p>アスポート事業の小学生版であるジュニアアスポート事業があります。これは埼玉県が主催し本庄市を会場に週3回実施しています。現在、小学生11人が参加しています。</p> <p>小学生から支援を行うことで効果が早く見られるため、より重要と考えますが、子ども1人に対し、サポートする大人が1.5人程必要となります。</p> |

| | |
|-------------------|---|
| | <p>学校が終わったあと、担任の先生からアスポート職員へ子どもの引渡しをして頂き、皆で宿題をやったり、体を動かし遊んだり、工作をしたりして、夕食を食べたあと職員が自宅まで送ります。</p> <p>これは効果が見られ、不登校傾向の子どもが登校するようになったり、週3日を楽しみに過ごしている子どももいます。</p> |
| 岡崎委員 | 11人は、どういう形で選ばれているのでしょうか。 |
| 生活自立支援課 茂木課長補佐 | <p>生活自立支援課の生活困窮窓口での相談世帯の小学生や、生活保護世帯の小学生、また、家庭児童相談からの情報や、学校からの情報提供の中から対象者を選んでいきます。</p> <p>現在、このほかにも参加したいという方がいますが、現状の受け入れ体制では困難な状況です。今後どのように展開をしていくべきかを模索している段階です。</p> |
| 市長 | 11人をもう少し拡大しようとする、どのくらいまで広がりますか。本来であれば、何人受け入れたいという目安を掴んでいるのでしょうか。 |
| 生活自立支援課 茂木課長補佐 | 現在把握しているだけで、あと20人ほど受け入れたいところです。塾に通いたくても経済的に通えない方向けの無料塾と誤解されがちですが、この事業は性質が異なり直ちに支援が必要と判断した子どもから順番付けています。 |
| 市長 | 本来であれば、あと倍の人数を受け入れたいということですね。現実として、マンパワーやお金のことはどうでしょうか。 |
| 生活自立支援課 茂木課長補佐 | <p>現在、中高生向けアスポートは約700万円の予算で20～30人参加する計画ですが、小学生30人の支援は人件費等を考えると本庄市の規模で約1,000万円は必要かと考えています。</p> <p>現在、ジュニアアスポートは県の事業のため県が負担していますが、恐らく中高生より高コストであると思います。</p> |
| 市長 | <p>今は県が負担しているのですね。</p> <p>本庄市の場合、今の倍の人数の子ども達のケアができれば、貧困家庭の子ども達に手が届くという状況ということですね。</p> |
| 生活自立支援課 茂木課長補佐 | はい。潜在的な対象者数は計り知れない部分もあります。連絡をとっても一切連絡を遮断している家庭もあり、粘り強くメッセージを置くところから始めていますが、2年経過しても反応がない場合もあります。 |
| 富沢教育長 職務代理者 | <p>生活規範は小学生までに出来上がるということが、最近の行動心理学から解っています。小学生までに生活規範を学ばせないといけません。</p> <p>昭和28年頃の生活保護は、どうやっても自分の力で乗り切れない困窮者のみでした。しかし、今の生活保護の方は、努力して自立しようとする意欲が極めて低く、それを子どもが引き継いでいってしまいます。小学生の頃から、親を客観的に見る教育をしなければ間に合いません。</p> |
| 市長 | 今日、ジュニアアスポートの話を聞いて良かったと思います。 |

| | |
|------|---|
| | <p>中高校生はもちろん大事ですが、さらに小さな子ども達を、子どもの頃から変えようとする事は、将来的に様々なリスクを軽減できる可能性があると感じました。埼玉県には、さらにがんばってこの事業を進めて欲しいと思います。現在は、モデル事業として100%負担してもらっていますが、県下全体で行う場合、基礎自治体のお金の負担も増えてきます。それは、リスクを軽減させるための投資だと思い、しっかりやっていくべきだと思いました。</p> <p>欠席予定となっていた落合委員がいらっしゃいましたね。説明が終わり、すでに意見交換を始めていますが、何かご意見等ございますか。</p> |
| 落合委員 | <p>よく言われていますが、貧困は継承されていきます。子ども達には、お金の管理の方法を学ばせる必要があります。全国銀行協会が、金融教育として銀行の使い方やお金の貯め方、自らが主体的にお金とどう関わるか、お小遣いをどのように管理するかというプログラムを出したことがあります。しかし、当時のある学校の団体が反対を行い、水面下に沈んでしまいました。お金の動きは小さい頃から教育し、意識化していかないと、グローバル化している世の中から置いていかれてしまいます。</p> <p>貧困の連鎖というのは、1945年以降様々な状況下で対応されてきましたが、解決はされていません。経済教育をどう展開していくかが、これからの指針だと思っています。</p> |
| 市長 | 他にいかがでしょうか。 |
| 今井委員 | <p>経済的な貧困家庭に対するサポートができているということですが、それを外国人の子どもに対しても広げられれば良いと思います。外国人の子どもに対するサポートを充実することによって、学校や先生の負担の軽減を図ることに繋がります。</p> <p>貧困家庭へのサポートも、十分満たされてはいませんが、貧困ではない外国人の子どもに対しても、学校外にサポート体制をつくっていくのがよいと思います。</p> |
| 落合委員 | 学校外ということですが、コミュニティ教育という概念で展開する方法も見出すということですか。 |
| 今井委員 | そうですね。予算の面でも、マンパワーの面でも大変かと思いますが、アスポート事業の中に外国人のための部署をつくる方法もいいのかと思います。 |
| 市長 | <p>やらなくてはいけないことですよね。私がいつも感じるのは、義務教育までは子どものことを把握していますが、卒業してしまうと今何をしているかはわかりません。その子達の誰かが、中途半端な日本語を覚えたまま、日本から出て行く事もできずに社会の一員となっていき、それが社会全体の不安要素となることは良くありません。貧困家庭も外国人に対する教育も、非常に大事な事だと思っています。外国人は年々数が増えてきており、これから</p> |

| | |
|-------------------|--|
| | も増えてきます。 |
| 富沢教育長 職務代理者 | 西小学校では、24人がうまく話せないというのは大変ですね。今年も半年が経過しましたが、現場ではどうなっているのでしょうか。大混乱になっているのでしょうか。 |
| 学校教育課長 | 実際のところ、教室数を増やしたい、通訳を増員してほしいと、ヘルプの声が届いています。現状の中で、一生懸命頑張っております。 |
| 教育長 | 学校教育課長は西小学校に居たので、実際の様子を紹介してください。 |
| 学校教育課長 | 西小学校で教頭職としてお世話になっていました。いじめに対する敏感さは日本人より高く、放課後にお見えになられることもありました。しかし、保護者の方も日本語が得意ではないので、その場には通訳が必要で、対応は難しかったです。 子どもについては、日本語指導教室で教えてはいますが、それだけでは足りず、大きな教室で授業を行う際には、通訳が隣に寄り添い、授業を通訳する場面もあります。児童数も多く、ニーズへの対応が限られている中、教育を行っています。 |
| 市長 | ブラジル系の子どもが通っているスクールがあった気がしますが、現在は無いのでしょうか。 |
| 学校教育課長 | 上里にございます。そこに通っている外国人の方もいます。 |
| 市長 | そこは、主にブラジル系の方ですか。 |
| 学校教育課長 | そうですね。それでも皆さんが、地元の公立学校を選ぶのは、やはり費用がかからないからです。 |
| 市長 | 本庄市内の外国籍の児童は、基本的には地元の公立学校に通うしかないわけですね。 東日本大震災のあと、一時期外国人が少なくなったため、問題がクローズアップされていみせんでしたが、最近は増加傾向となっているため大きな問題です。 先ほど、アスポート事業に参加している外国人が2名とのことでしたが、潜在的にはもっといると見てもいいのでしょうか。引きこもって接触ができない家庭に、外国人の子どもがいる可能性もありますか。 |
| 生活自立支援課 茂木課長補佐 | 現在支援が必要だと思われる外国籍の子どもを5人把握しています。しかし、家庭訪問をしても保護者が日本語がわからず趣旨が理解できない状況です。各情報から潜在的にあと10世帯ほどあると考えています。 |
| 市長 | 親御さんは、仕事はどうしているのですか。 |
| 生活自立支援課 茂木課長補佐 | 把握している世帯は仕事をしているようです。しかし、不規則な勤務で職種も分かりません。支援者の方から生活自立支援課に情報が入ると飛び込みで訪問を行いますが、ほとんど反応がないのが現状です。 |
| 岡崎委員 | 誰が来ているのか分からずに、拒否されているのでしょうか。 |

| | |
|-------------------|--|
| 生活自立支援課 茂木課長補佐 | こちらは身分を名乗り、不在時はメッセージも残しています。日本語が理解できているのか分からない状況です。 |
| 落合委員 | 外国人の方々のコミュニティの把握はできているのでしょうか。そことの連携は取れていませんか。 |
| 生活自立支援課 茂木課長補佐 | 把握はしていますが、連携のアプローチはかけていません。我々の受け皿が不十分のため、一度に大勢の方が参加を希望された場合、対応できないことが懸念されます。 現状では、ただちに必要な子どもからとなると個別のアプローチが最善だと判断しています。 |
| 落合委員 | 本庄・伊勢崎エリアは、海外へ行くにも新潟空港から行けますし、仕事をする場合には群馬・東京にも行けるため、外国籍の方には住みやすく人気のようです。そのため、ベトナム系の方がコミュニティをつくっているそうです。 私の大学にベトナムから留学してきた教え子がいます。話を聞いたところ、本庄市にポートピープルの第2世代が30世帯程住んでいるようで、来年か再来年に多くの子どもが小学校へ入学することが見込まれているそうです。焦る親達は、どうするかを皆で話し合っただけのため、同じ小学校に外国人の子どもが集中することが想定できます。コミュニティと連携を図ることで、早めにリサーチを行い、共生・共存が可能な策を考えていかななくてはなりません。 |
| 市長 | 秘書課において国際交流協会を担当していますが、コミュニティを取りまとめている方に協会へ入ってもらいパーティーや行事を行うことで、外国人コミュニティを市がサポートすると流れが続いています。しかし、把握できていないコミュニティもあるのが現状です。 日本語教室も行い、皆さんに日本語を学んでいただく機会を設けており、ボランティアの方に一生懸命教えていただいています。しかし、それも限られたニーズとなっているため、外国人対応については、市としても指針等をつくり、全体的に対応していく必要があると強く感じました。 本日は、総合教育会議に秘書課長と秘書課長補佐にも来ていただいています。国際交流協会の事務を取り仕切る中、コミュニティとの間で課題や問題等感じていることはありますか。 |
| 秘書課長 | 市長がおっしゃるように、新しく来た方がどのようなグループに属し、どのような生活をしているのか見えない部分があります。国際交流協会では、会員を募集し様々な事業を行っていますが、参加してくれる方はある程度限られているように感じます。もっと多くの方に参加していただき、多文化共生の社会を目指したいところですが、活動はあまり大きくなっていない状況です。 また、国際交流協会はボランティアが中心となっているため、本庄市にいる2,000人規模の外国人全てを対象に事業 |

| | |
|---------------|--|
| | を行うことは厳しい状況となっています。 |
| 市長 | 日本語教室をはにぽんプラザにて行っていますが、あれはどういった活動ですか。 |
| 秘書課長 | 毎週水曜日の夜、日本語教室を行っています。自由に参加していただき、ボランティア1人に対し外国人2～3人を対象にしています。基本的には、生活に必要な日本語を学ぶ教室となっています。 |
| 市長 | 年齢層はいかがですか。 |
| 秘書課長 | 大人が多いです。 |
| 秘書課 神岡課長補佐 | 国際交流協会以外に、ある団体に、毎週日曜日に日本語教室をやっています。そちらには大人だけでなく、小学生のお子さんが5～6人来ているようです。子どもには、本庄東高校のボランティア部の生徒さんが教えてくれているようです。 |
| 市長 | なるほど。色々なアプローチが大事だと思います。学校の授業が分かるようになるまで、サポートしていかなくてはけません。やはり、小さい頃から、通訳無しで日本語を理解してもらい、日本語の思考能力を持ってもらうことが大切です。そのために、最小の経費で最大の効果を発揮させるにはどうすべきかを考えていく必要はあります。 |
| 落合委員 | 最近、共生・共存・共栄などについて改めて考えています。本庄市近辺に住むベトナムの方達が何を求めているかというところ、終の棲家、すなわち墓所を求めています。定住したいと思っている外国人がいるのであれば、行政側はここにいていいというサインを出していく事も必要だと、ベトナム人の彼らと話して思いました。 |
| 市長 | 非常に重要な視点だと思います。 |
| 岡崎委員 | うちの会社でも、先日パートで来ていただいた方がペルーの方でした。日本に来て何年も経っていましたが、これまで日本語を使わない工場で働いていたため、自分では読み書きができない状態でした。結婚し子どもができたため、このままではダメだと思い、日本語を習い、小学3年生レベルの日本語までは読み書きができることでした。 非常に真面目な方で、そういった方が日本に定住しようと考えているのであれば、日本語の指導にも力を入れ、日本語が学習しやすいまちというのをアピールできれば良いと思います。 |
| 市長 | これからの日本は、他の国から来て日本に定着していく人が増えていくと思います。第1世代は国籍が違ったとしても、第2～3世代は、国籍を取得して帰化していくこととなります。そういったことを見越した上で、日本語の社会に溶け込め、日本の社会の一員として自己実現を図れるような回路をつくっていくことが非常に大切だと思います。そう思うと、小さな頃から日本語を学べる環境を整備することが大事です。 |

| | |
|--------|---|
| | <p>言語はコミュニケーションを取る上で、大切なものです。ベトナム人のために、我々がベトナム語を覚えようとするのももちろん良いと思いますが、彼らが日本社会に飛び込むときのことまで、しっかり考えていかななくてはなりません。市役所としても、体制づくりが大切だと思ったところです。</p> |
| 落合委員 | <p>資料2について、学校教育課長に質問ですが本庄東小学校に17人の外国人生徒がいますが、学校として日本語能力の把握はしているのでしょうか。年齢によって、子ども達が日本語をどれほど理解しているか、スコア化等しているのでしょうか。</p> |
| 学校教育課長 | <p>スコア化はしていませんが、1人ずつ担当者がついているため、子ども達の日本語レベルがどれほどか把握できています。</p> <p>また、日本語教室に通うことがゴールではなく、通常のクラスに戻って学習できる力を身につけることが目標となっています。</p> |
| 落合委員 | <p>日本語教室から通常のクラスに戻す際、日本語の偏差値等を測ったりするのでしょうか。</p> |
| 学校教育課長 | <p>数値化はしていませんので、徐々に慣らしながら、通常のクラスで学べる力を持っているか確認しています。</p> |
| 落合委員 | <p>ここまでやれば通常のクラスへ行けるという目標値を、子どもや親御さんに見せることが大事だと思います。そういった目標値や指標を示しても良いと思います。</p> |
| 教育長 | <p>一般的には、日常会話ができるところまでいけば戻します。</p> |
| 落合委員 | <p>日常会話のレベルは、一人ひとり違うと思います。</p> |
| 教育長 | <p>おっしゃることはよく分かります。数値化するとなると、県や国レベルで指標をつくる必要があると思います。1つの市や学校の中に多くの言語があり、全ての言語の日本語テストを作成する必要があるため、学校レベルで指標をつくることは難しい面もあります。</p> |
| 市長 | <p>まずは、群馬県の太田市や大泉町などの、外国人が多い自治体がどのように事業を進めているのか情報を集めていきましょう。先生の仕事が楽になるような方法で、日本語力をつけさせていく方法を考えていきたいです。</p> <p>教育委員の皆さんから様々なご指摘をいただきましたが、職員が一堂に会し、情報共有ができたことは良かったと思います。</p> <p>冒頭でも話しましたが、文科省のパネルディスカッションに参加した際、総合教育会議が設置され始めた当時、会議は必要ないのではないかという意見があったと聞きました。しかし、これまでの会議は任意の会合だったため、設置されることで実効性を高められるため良いのではないか、となったそうです。しかし、東京都などの大きな都市では、傍聴人が多く来るため、本音が話しづらくなっており、総合教育会議の形骸化が懸念されているようです。</p> <p>余談になりましたが、総合教育会議で今日のような議題が出た</p> |

| | |
|------------------------|---|
| | <p>ことは非常に良かったと思います。今回の議題は、今後とも継続的に、チェックを行いながら進めていければと思います。</p> <p>他に何かありますか。無ければ、教育長から一言お願いします。</p> |
| 教育長 | <p>色々なご意見をいただき、ありがとうございました。学校においては、個人の努力等を強調し子ども達の学力を見ていたため、家庭環境や背景といった観点から学力格差を問題視していくということはありませんでした。</p> <p>しかし、今回福祉部でアスポーツ事業を始めていたということは、教育委員会として有難いことだと思いました。学校の中では、貧困の状況というのは分かりにくく、また、現在は家庭訪問も行いにくくなっています。そういった中、学校の中で取り扱いきくい、貧困と学力の問題を取り上げていただいております。無料塾という話もありましたが、同じような取組を放課後学習という形で行っており、主に数学の指導に力を入れています。</p> <p>また、外国人の子どもは、日本人の子ども以上に多くの悩みを抱えています。学校では日本語を話し、帰れば両親と外国語で話し、自分が一体何人なのか疑問を感じている子どもが多くいます。日本人の子どもにはもちろんですが、外国人の子どもにも手厚いサポートが必要だと思います。</p> <p>今回は、色々なご意見をいただきまして、誠にありがとうございました。</p> |
| 市長 | <p>ありがとうございました。</p> <p>それでは、議事の進行を事務局へお返しいたします。ありがとうございました。</p> |
| 事務局 (企画課長) | <p>皆さまには、慎重審議大変ありがとうございました。</p> <p>最後にその他といたしまして、今後のスケジュールについて事務局よりご説明いたします。</p> |
| 事務局 (企画課新井 課長補佐) | <p>ご説明いたします。今年度の総合教育会議の開催につきましては、昨年度と同様、年3回程度を予定しております。今後につきましては、第3回会議の開催を来年1月頃に予定しています。</p> <p>その他につきましては、以上でございます。</p> |
| 事務局(企画 課長) | <p>以上をもちまして、本日の日程はすべて終了いたします。本日は、ありがとうございました。</p> |

市 長

吉田 信解

教 育 長

勝 山 勉